

国際マネーフローレポート No.80

2012年7-9月期の米国資本収支

【目次】

- . 今月のトピックス
~ 2012年7-9月期の米国資本収支
- . 国際金融市場、国際マネーフローの動向
 - 1. 主要先進国の金利と為替相場
政策金利 長期金利 金利差と為替相場
実質実効為替相場 株価、実質 GDP 成長率、インフレ率
 - 2. 世界の流動性
世界の外貨準備 世界の通貨当局の米国債・政府機関債投資残高
主要先進国合計のマネーサプライ
 - 3. 中国とロシアの貿易収支
中国の貿易収支 ロシアの貿易収支
 - 4. オフバランス取引での円ポジション
シカゴ通貨先物市場での投機筋による円のネットポジション
 - 5. 日本をとりまく資本移動
対外証券投資 対内証券投資
 - 6. 米国をとりまく証券投資
対米・対外証券投資 海外資本の米国債保有残高
 - 7. 世界的不均衡
米国の経常収支赤字 米国の貿易赤字 ドル相場
 - 8. アジアの株価・為替相場
株価 為替相場

三菱UFJリサーチ & コンサルティング株式会社

調査部 塚田 裕昭 (chosa-report@murc.jp)

〒105-8501 東京都港区虎ノ門 5-11-2

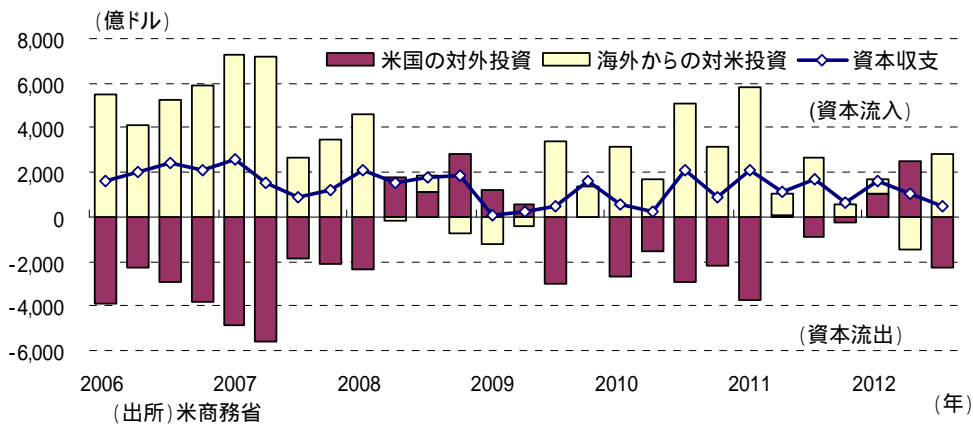
TEL: 03-6733-1070

．今月のトピックス～2012年7-9月期の米国資本収支

米商務省が昨年12月に公表した国際収支統計によると、2012年7-9月期の米国の資本収支は458億ドルの資金流入となり、4-6月期の1,050億ドルに比べ流入額が減少した(図-1)。

内訳をみると、米国の対外投資は2,298億ドルの資金流出と3四半期ぶりに増加、海外からの対米投資は2,820億ドルの資金流入と2四半期ぶりの増加であった。1-3月期、4-6月期と減少(流入超過)が続いた米国の対外投資が、7-9月期には増加(流出超過)となったことが、トータルでの流入額の減少につながった。

図 -1 米国資本収支の推移



7-9月期の米国の対外投資が増加(流出超過)したのは、米金融機関の対外債権が6四半期ぶりに増加(流出超過)したことが主たる原因である。米金融機関の対外債権は、自己勘定が11年10-12月期以降、顧客勘定が11年4-6月期以降、減少(流入超過)を続けていたが、12年7-9月期は共に増加(流出超過)した。米金融機関の対外債権の増加額は、1,440億ドルで、これに対外直接投資の増加額1,014億ドルを加えると、対外投資のトータルでの増加への寄与のほとんどを占める(図-2)。一方、米政府部門による対外投資、民間部門による証券投資は、7-9月期は減少となった(図-3)。

図 -2 米民間部門の対外投資

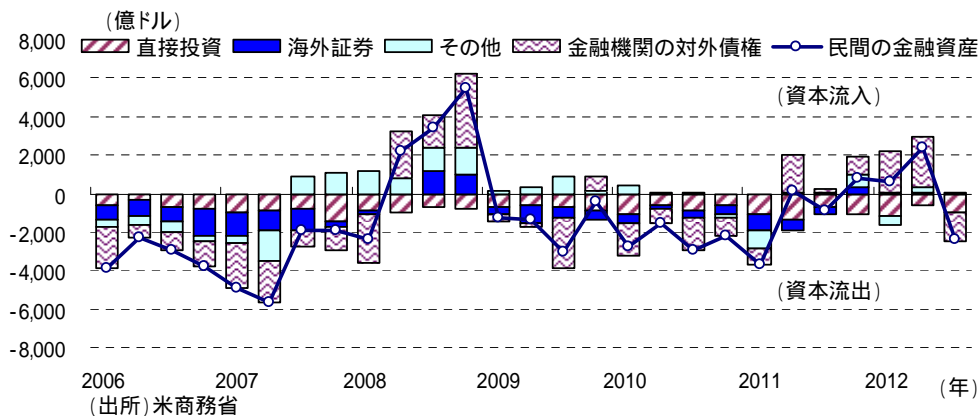
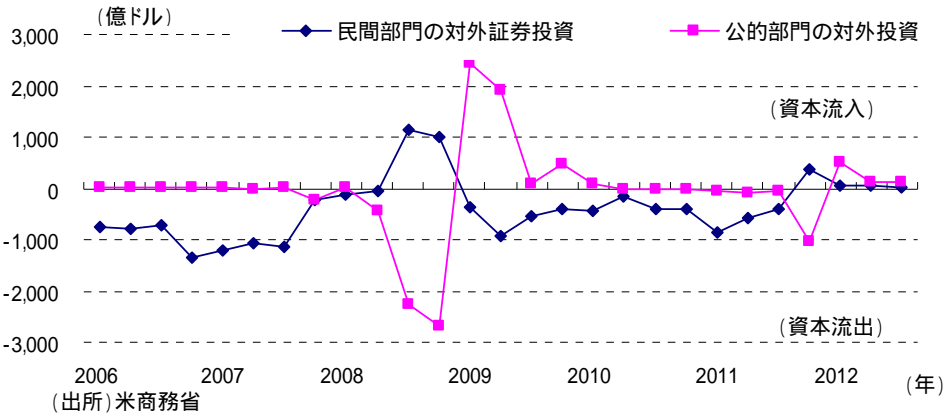


図 -3 米公的部門の対外投資と民間部門の対外証券投資



海外からの対米投資増の内訳をみると、公的部門が1,308億ドルの増加（資金流入）、民間部門が1,517億ドルの増加（資金流入）であった（図 -4）。公的部門の対米投資増は大部分が米国債（1,049億ドル）であり、民間部門は、米国債（479億ドル）、米国債以外の米国証券（477億ドル）、直接投資（342億ドル）が大半を占める。また、11年10-12月期以降、減少が続いていた米金融機関の負債（海外から米国金融機関への預金、貸付など）が、10-12月期に増加に転じたことも、対米投資の増加に寄与した（図 -4）。金融情勢が不安定な中、このところ海外からの対米投資は、米国債に偏重気味であったが、7-9月期は、他資産への投資も進んだようだ。

図 -4 海外からの対米投資

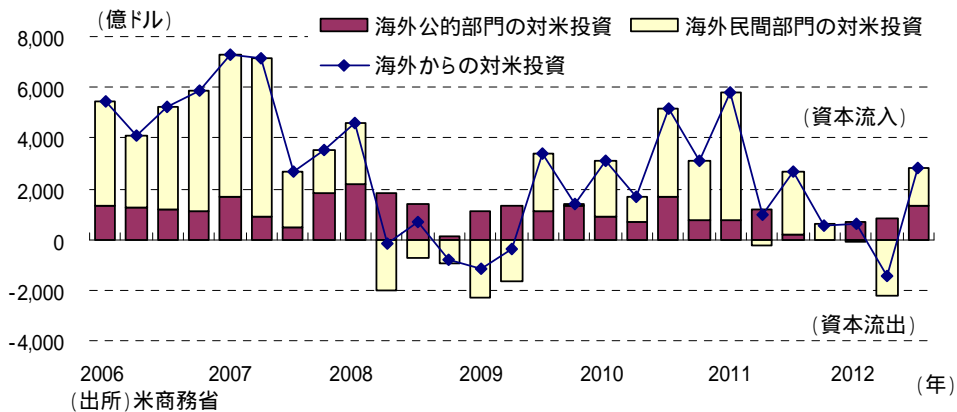
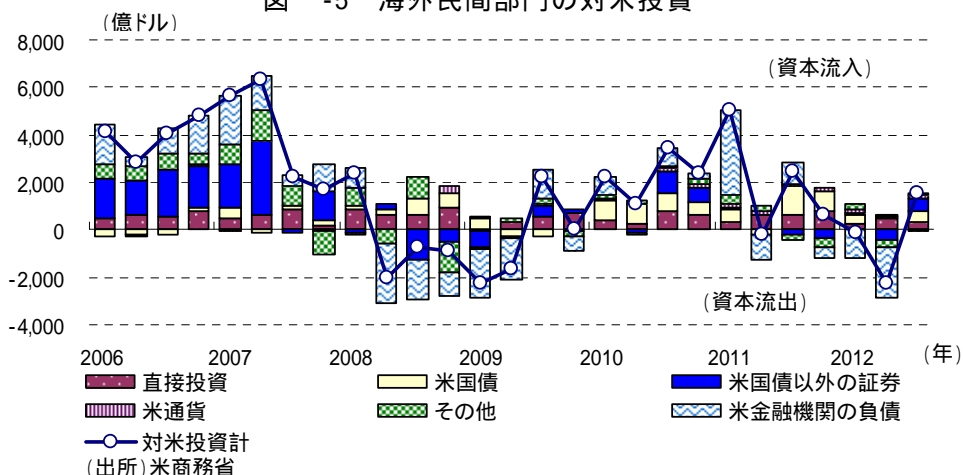


図 -5 海外民間部門の対米投資



．国際金融市場、国際マネーフローの動向

1 ．主要先進国の金利と為替相場～FRBが緩和策に失業率目標を設定

政策金利

ユーロ圏

- ・ ECB（欧州中央銀行）は、1月10日の理事会で政策金利を0.75%に据え置いた（図 -1）。

英国

- ・ BOE（イングランド銀行）は、1月9、10日のMPC会合で政策金利を0.5%に据え置いた。また、資産買入プログラムの買入規模を3,750億ポンドに据え置いた。

米国

- ・ FRB（連邦準備制度理事会）は12月11、12日に開催したFOMCで、失業率が6.5%を上回り、向こう1～2年のインフレ見通しが2.5%を上回らない限り、事実上のゼロ金利政策を継続することを決定した。また、12月末のツイスト・オペ終了後も、米長期国債を毎月450億ドルずつ購入することも決定した。

日本

- ・ 日本銀行は12月19、20日の金融政策決定会合で、追加の金融緩和を決定した。資産買い入れ基金を10兆円程度増額し、総額101兆円程度とする。また、次回会合で「中長期的な物価安定の目途」について検討すること、無担保コール翌日物金利の誘導目標を0-0.1%程度に据え置くことを決定した。

長期金利（国債10年物利回り）

- ・ 12月の主要国の長期金利は、日米については、株高の進展などを受けて上昇基調で推移した。英独については一進一退で推移した後、月末にかけて上昇した（図 -2）。

図 -1 政策金利

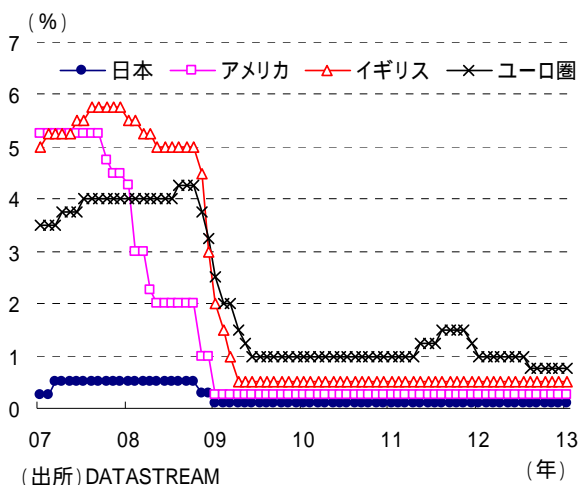
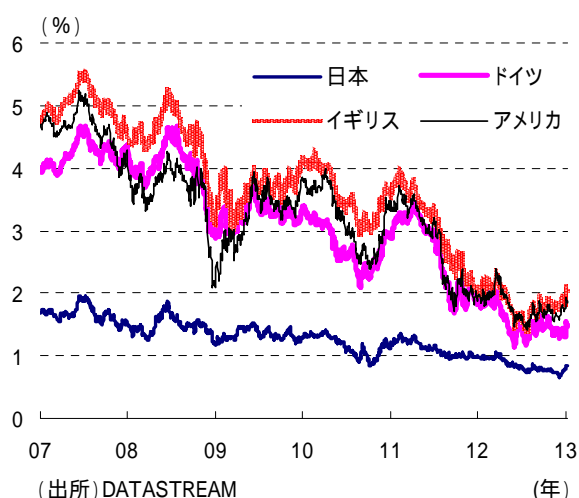


図 -2 長期金利（国債10年物）



金利（3ヶ月物）差と為替相場

日本と米国

- ・12月の短期金利（3ヶ月物）は、ドル金利、円金利ともに狭いレンジで低下基調で推移したが、円金利の低下幅が大きかったため、金利差は小幅拡大した（図 -3）。
- ・12月のドル円相場は、自民党による金融緩和強化についての踏み込んだ発言などを背景に大幅に円安が進んだ。

日本とユーロ圏

- ・昨年8月下旬以降、ユーロ金利が円金利を下回っている。12月は、円金利は低下、ユーロ金利は概ね横ばいとなったため、金利差は小幅縮小した（図 -4）。
- ・12月のユーロ円相場は、大幅に円安が進んだ。

日本と英国

- ・12月は、円金利、ポンド金利とも低下した。金利差は月末にかけて小幅拡大した。
- ・12月のポンド円相場は、大幅に円安が進んだ。（図 -5）。

実質実効為替相場

- ・11月の実質実効為替相場は、ドル、ポンドが上昇、円、ユーロが下落した。

図 -3 米-日金利差とドル円相場

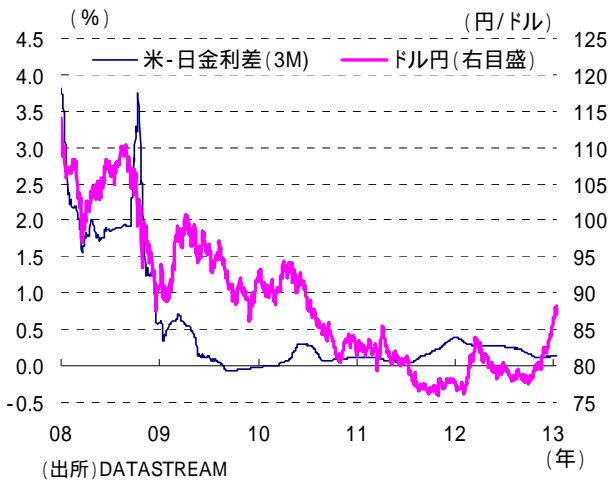


図 -4 ユーロ-日金利差とユーロ円相場

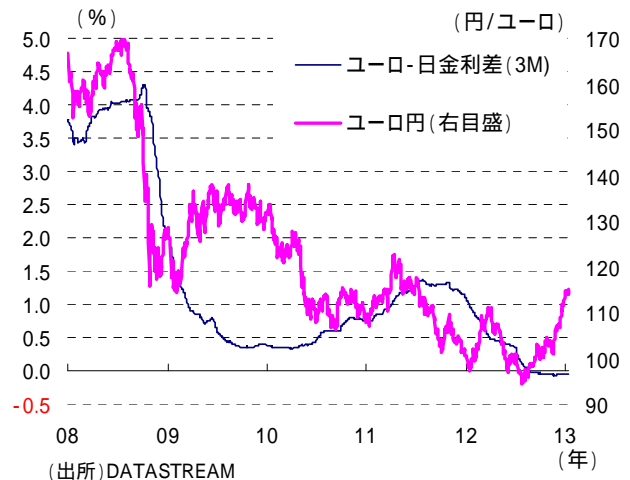


図 -5 英-日金利差とポンド円相場

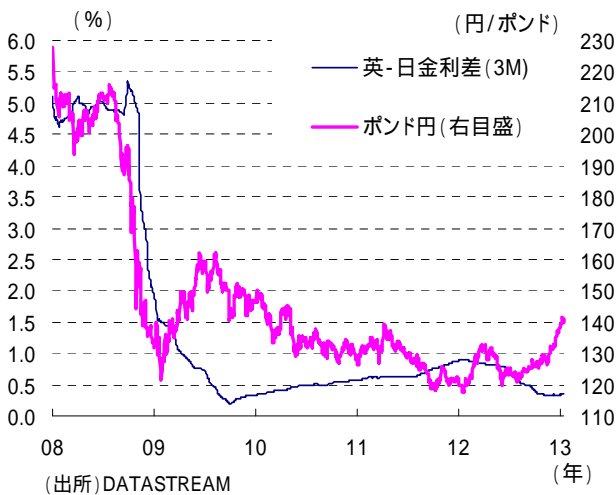
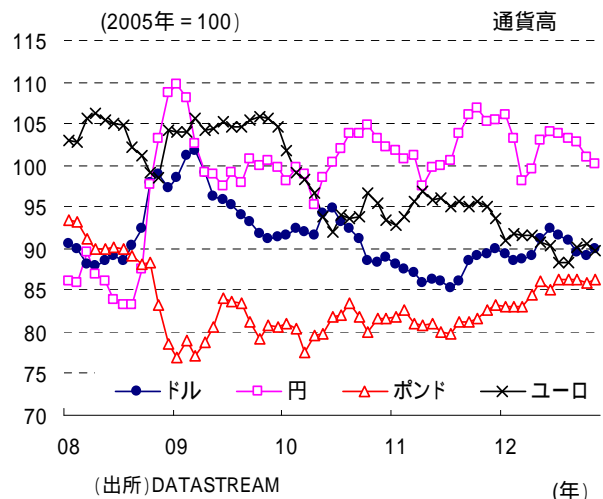


図 -6 実質実効為替相場



金利やマネーの動きを左右する株価、景気、インフレ率

【株価】

- ・12月の主要国の株価は、堅調に推移した。特に日本株は、衆院選での自民党大勝により金融緩和、円安進展への期待が高まり、大幅な上昇となった(図-7)。

【実質 GDP 成長率】

- ・7-9月期の実質 GDP 成長率(前期比年率)は、米国は+3.1%と前期に比べ伸び率が拡大した。英国も+3.8%と4四半期ぶりにプラスとなった。一方、日本は-3.5%と3四半期ぶり、ユーロ圏は-0.2%と4四半期連続のマイナスとなった(図-8)。

【消費者物価上昇率】

- ・11月の消費者物価指数(総合)は、米、英、ユーロで前年比プラス、日本は同マイナスとなった(図-9)。

【原油価格】

- ・12月の原油相場(WTI、期近物)は、上旬に原油増産観測などから下落したが、中旬以降、各種景気指標の改善、米財政の崖回避の観測などから上昇した(図-10)。

図-7 株価

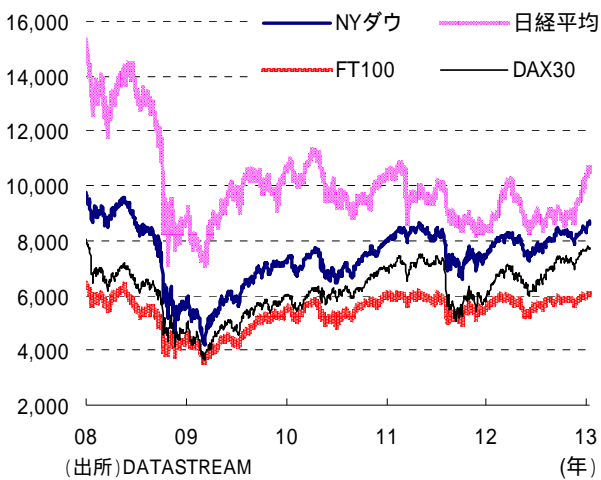


図-8 実質 GDP 成長率

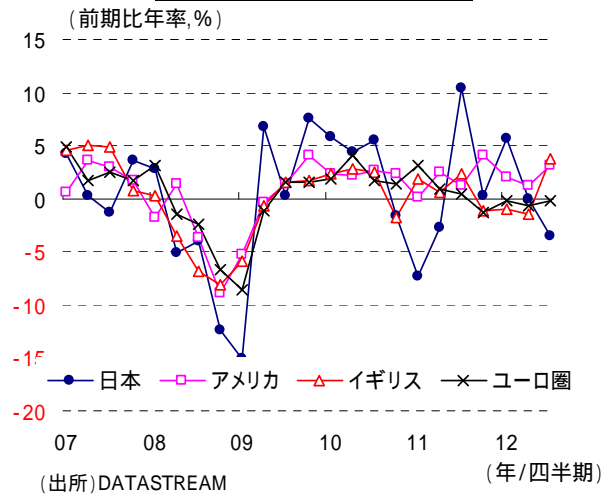


図-9 消費者物価上昇率

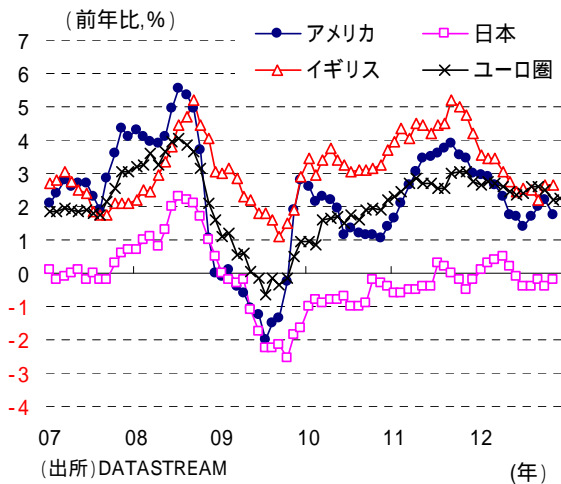
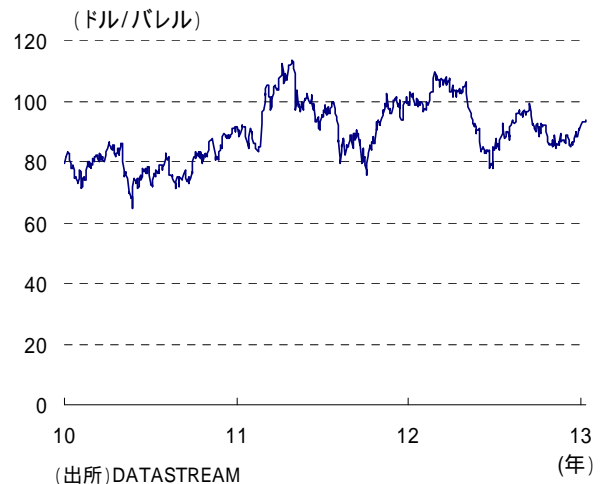


図-10 原油価格(WTI)



2. 世界の流動性～世界の外貨準備の伸びは縮小傾向

世界の外貨準備（通貨当局が保有する対外資産）

- ・世界の外貨準備は増加が続いているが、増加幅はこのところ縮小傾向となっている（図 -11）。アジア諸国の外貨準備は、このところ概ね横ばい圏で推移している（図 -12）。

世界の通貨当局の米国債・政府機関債投資残高

- ・11月の世界の通貨当局による米国債投資残高（FRB カストディ残高）は、前年比で6.8%の増加となった（図 -13）。

主要先進国のマネーストック

- ・11月の日・米・ユーロのマネーストックは、いずれも前年比で増加した（図 -14）。イギリスでは、前年比での減少が続いている。

図 -11 世界の外貨準備(伸び)

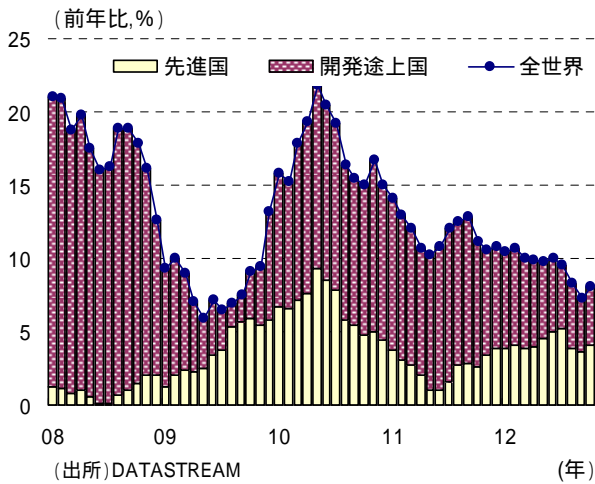


図 -12 アジア諸国の外貨準備(水準)

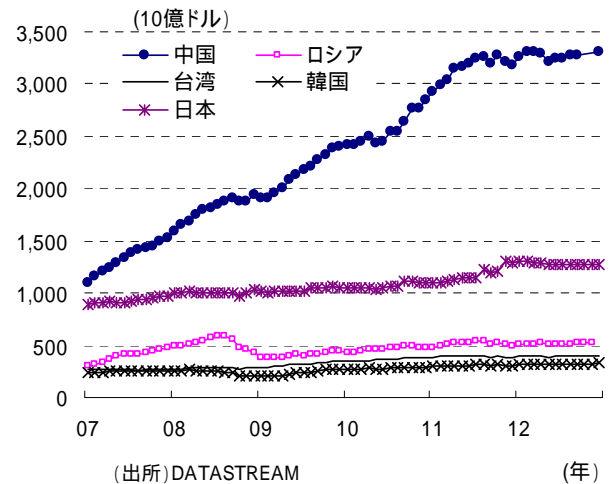


図 -13 通貨当局の対米投資と米国金利

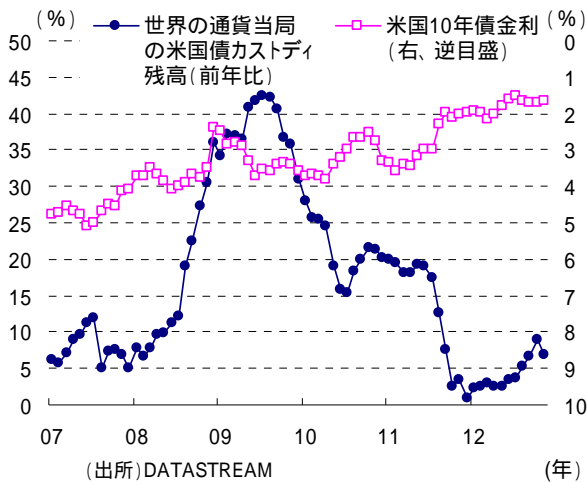
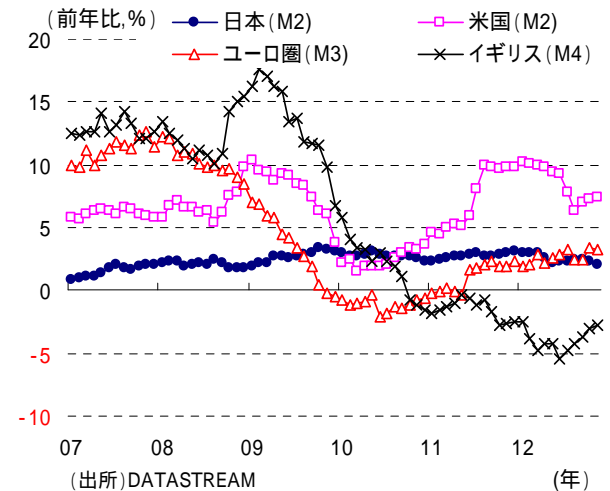


図 -14 先進国のマネーストックの伸び



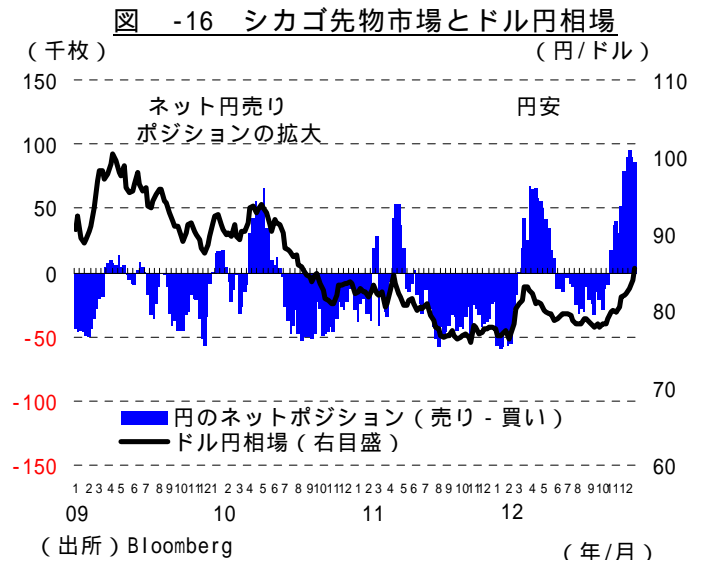
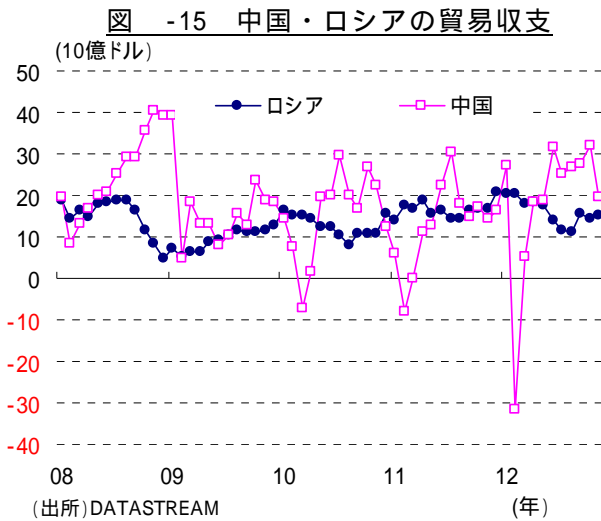
3. 中国とロシアの貿易収支～12月の中国の貿易黒字は前年比で増加

- ・12月の中国の貿易収支は前年比 92.1%増の +316 億ドルと、大幅な増加となった(図 -15)。
- ・11月のロシアの貿易黒字は、前年比 10.4%減の 152 億ドルとなった。

4. オフバランス取引での円ポジション～シカゴでの円ポジションは売り超

シカゴ通貨先物市場での投機筋(非商業目的)による円のネットポジション

- ・シカゴ市場での円のネットポジションは10月下旬に売り超に転じ、その後超過幅が拡大したが、12月中旬以降売り超幅がやや縮小した(図 -16)。



5. 日本をとりまく資本移動～2012年12月の対外証券投資は流入超過

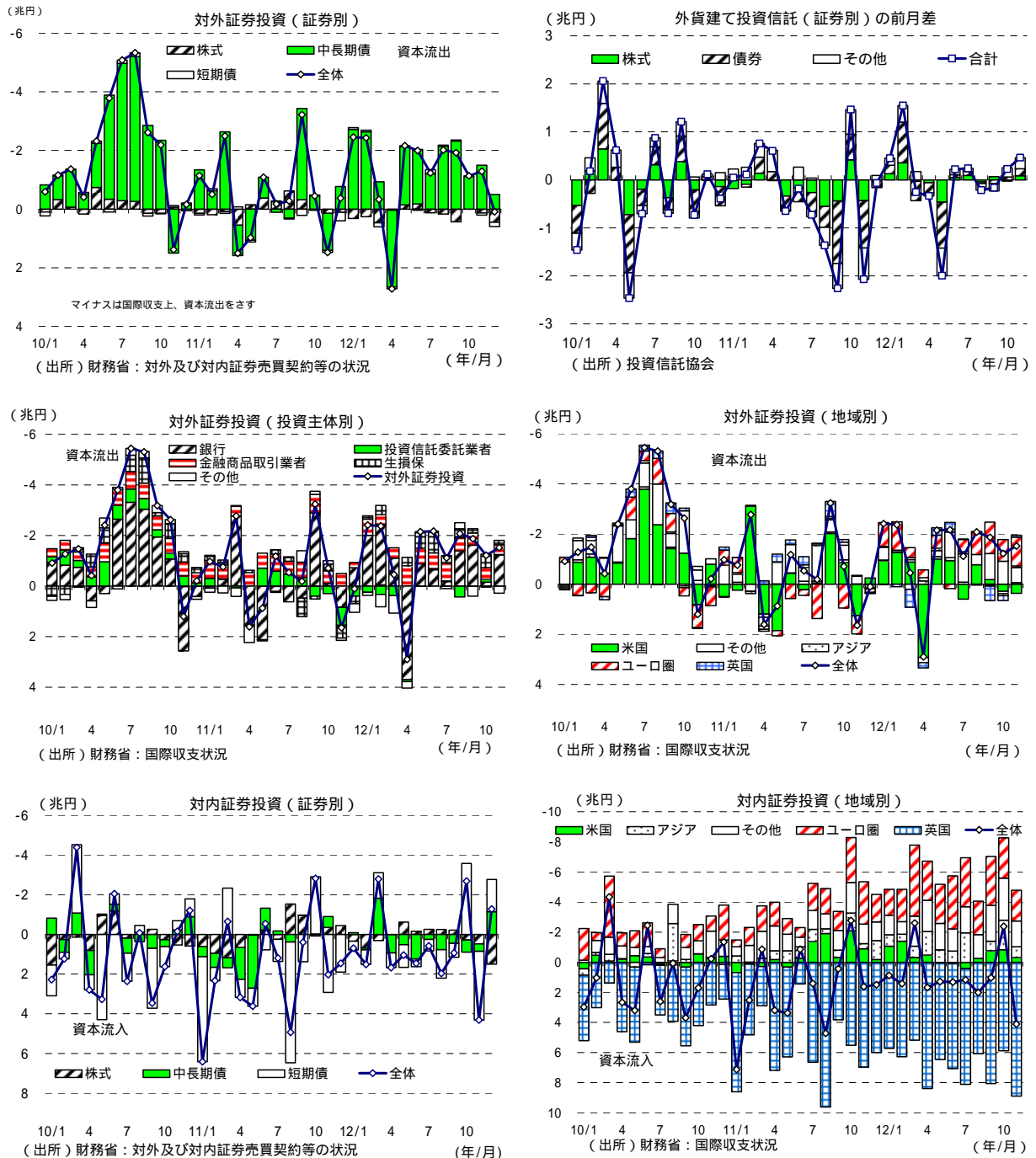
日本の対外証券投資（日本人投資家の海外資産への投資）

- ・12月は898億円の流入超過（売り越し）となった。中長期債が買い越されたが、株式、短期債が売り越された。
- ・10月の外貨建て投資信託残高は、株式型が前月に比べ減少したが、債券型、その他型が増加し、トータルで前月に比べ2,269億円の増加となった。

日本への対内証券投資（外国人投資家による対日証券投資）

- ・12月は1兆2,689億円の流出超過（売り越し）となった。株式が買い越されたが、中長期債、短期債が売り越された。

図 -19 日本をとりまく証券投資



6. 米国をとりまく証券投資～10月は海外資本が米国証券を買い越し

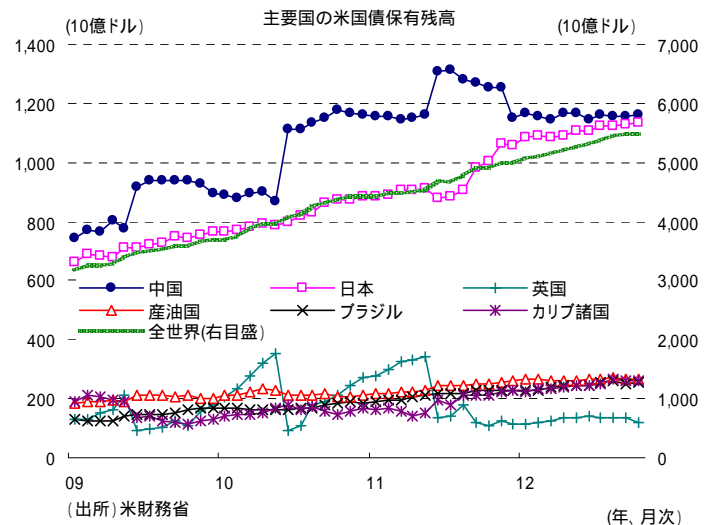
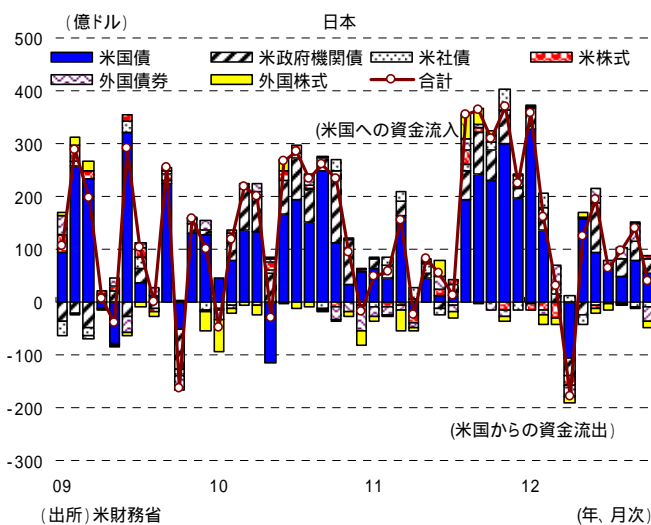
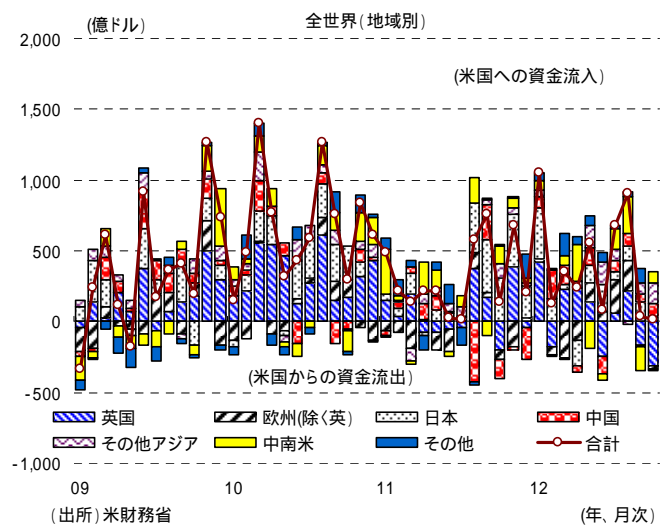
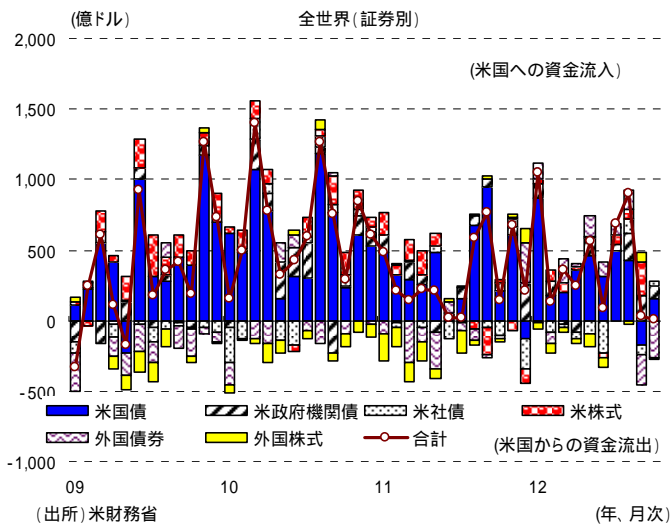
対米・対外証券投資

- ・10月の海外資本による対米証券投資は、ネットで284億ドルの買い越し(資金流入)となった。米国債、政府機関債、社債、株式のいずれもが買い越された。
- ・一方、米国資本は外国証券を買い越して271億ドルの資金を流出させた。
- ・このため、10月はトータルで13億ドルの米国への資金流入となった。

海外資本の米国債保有残高(ストック)

- ・10月の海外資本による米国債保有残高は5兆4,822億ドルと前月比で増加した。
- ・ストック残高を国・地域別にみると、大きい順に、中国1兆1,615億ドル、日本1兆1,347億ドル、石油輸出国2,662億ドル、カリブ諸国2,585億ドル、ブラジル2,552億ドルとなっている。

図 -20 対米・対外証券投資の動向



7. 世界的不均衡～米国の経常赤字(7-9月期)は前期比で縮小

米国の経常収支赤字(グローバルインバランス)

- ・2012年7-9月期の経常赤字は1,075億ドル(年率4,300億ドル、GDP比2.7%)と前期比で縮小した(図-21)。

米国の貿易赤字(国際収支・財サービスベース)

- ・2012年10月の貿易赤字は、422億ドル(季調値)と前月比で縮小した(図-22)。
- ・最大の赤字を計上している中国向けの貿易赤字は295億ドルと前年に比べて赤字幅が拡大した。

図-21 米国の経常収支

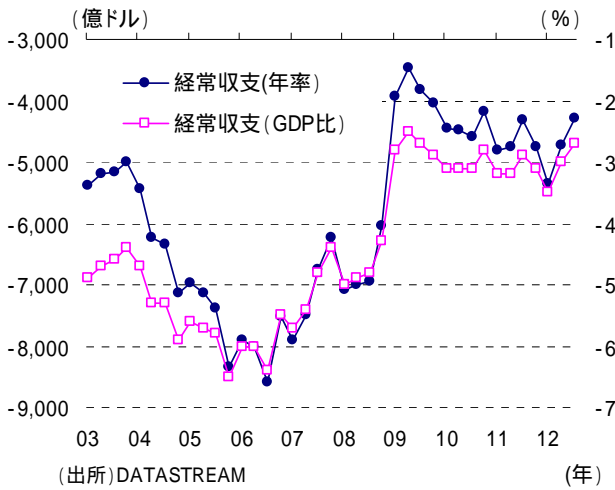
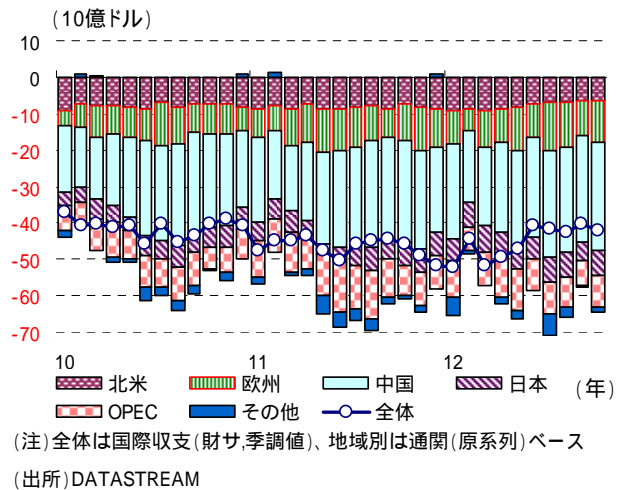


図-22 米国の貿易収支



ドル相場

- ・12月のドル相場は、対主要国で、中旬にかけてドル安が進んだ後に上昇し、一進一退の推移となった(図-24)。

図-23 ドル相場(名目、月次)

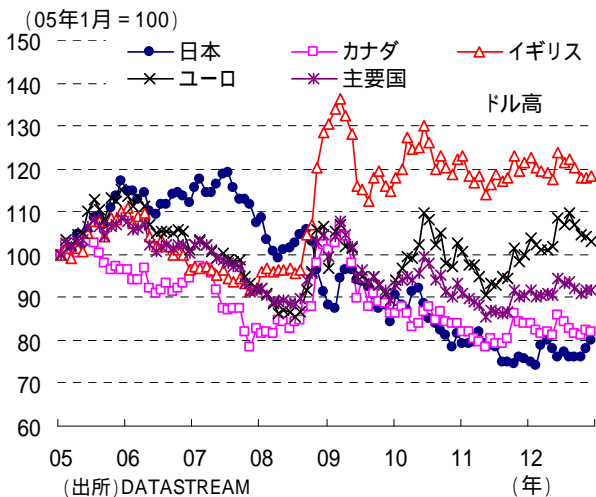
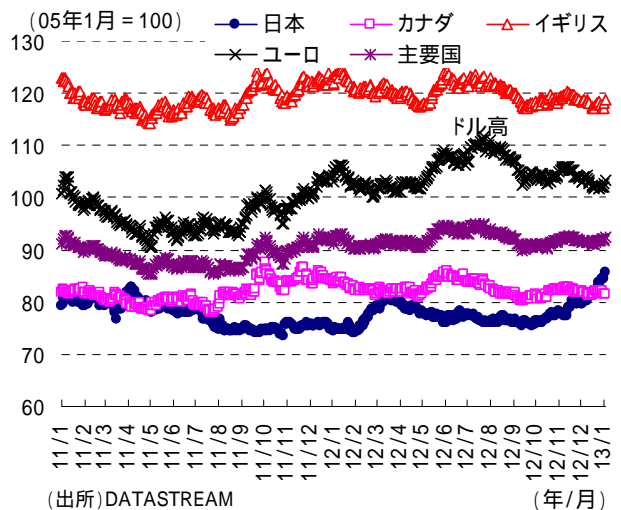


図-24 ドル相場(名目、日次)

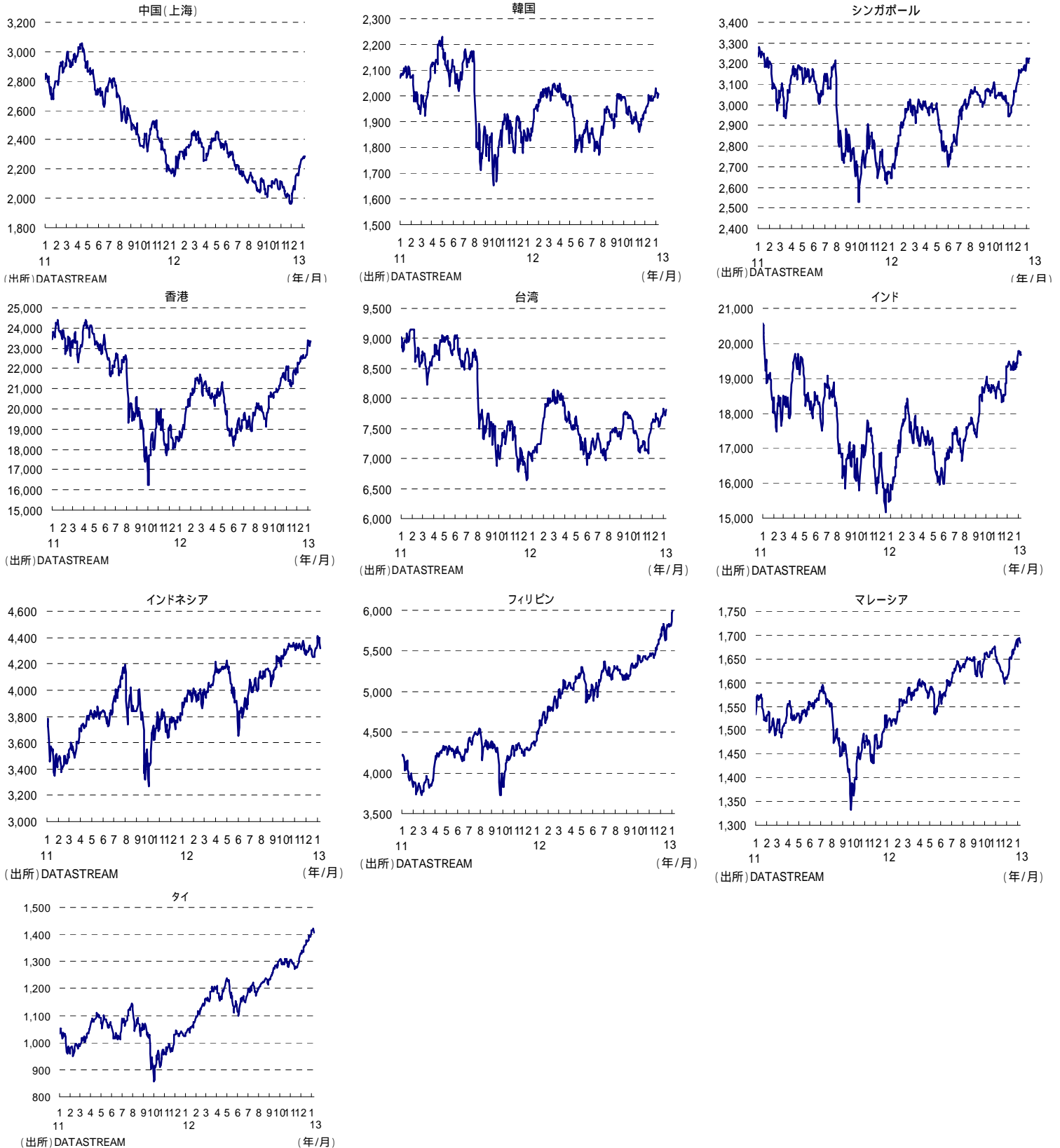


8. アジアの株価・為替相場～12月のアジア株は上昇

アジア主要国の株価

・12月のアジア株は、総じて上昇基調で推移した(図 -25)。

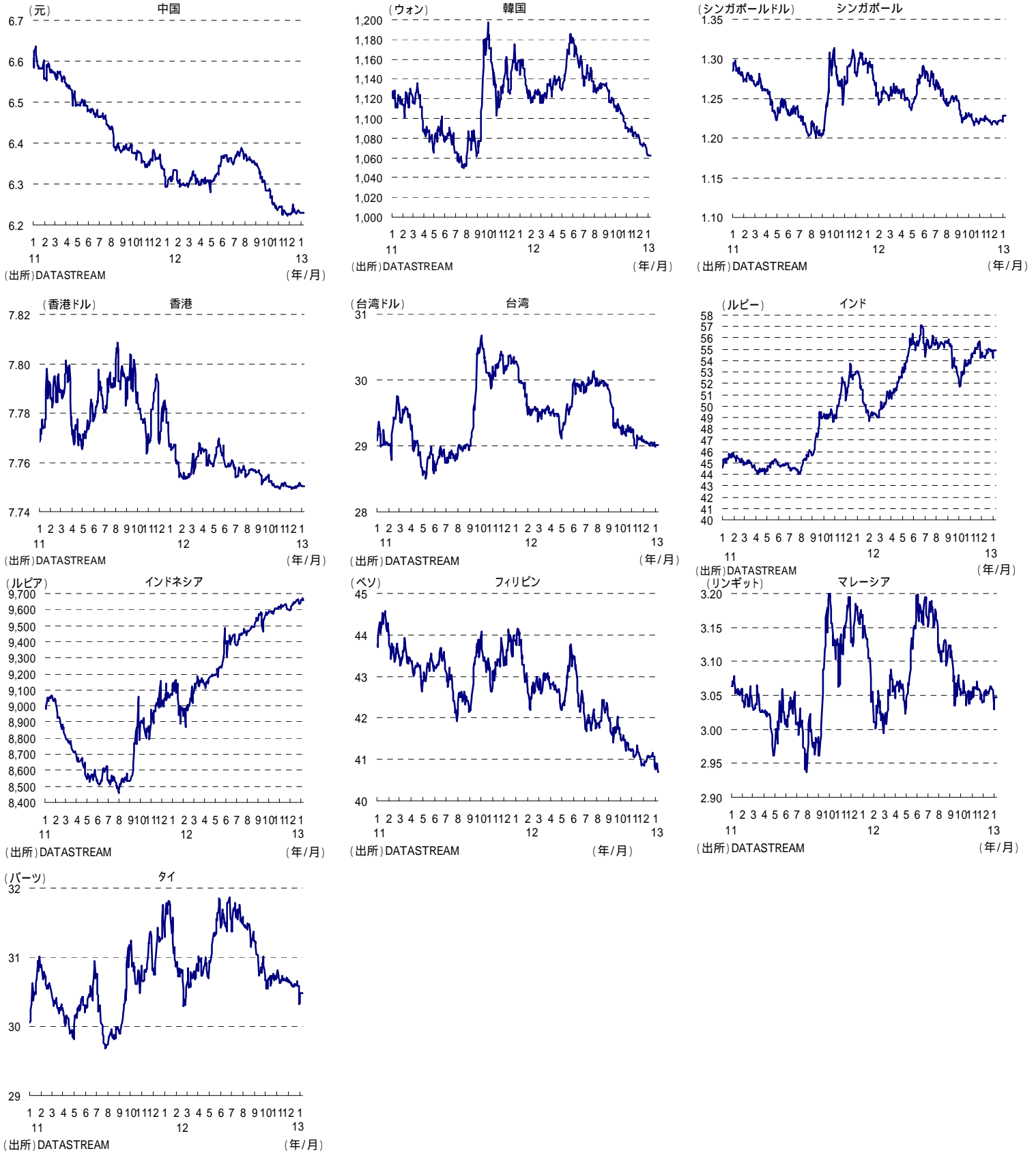
図 -25 アジアの株価



アジア主要国の為替相場

・12月のアジア通貨は、韓国、台湾、タイなどで対ドルでの通貨高が進んだ(図 -26)。

図 -26 アジアの為替(対ドルレート)



- ご利用に際して -

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一的な見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。